



「○○っ♡一緒に帰ろっ」

「モモ！急に出てくるなよ  
びっくりするだろ」

モモと付き合ってからもう一ヶ月。  
一目惚れして告白したら実は両想いで  
付き合えたのは奇跡だと今でも思う。



「ごめんごめん(笑)  
ウチ来てくれるって  
聞いてから嬉しくって…」

「ったく…大袈裟だなあ…」

「えへへ…早く行こっ♡  
お姉ちゃん大学早めに終わったから  
待ってるって！」

「はいはい…っと」



「上がって上がって〜！」

「お邪魔します…すごい  
綺麗なお家だな…掃除も行き届いてて…」

「でしょでしょ〜？  
うちのお姉ちゃんしっかり者で」

「あら？」



「君がモモの彼氏くん？初めました」

「あ！アザミお姉ちゃん！」

（この人がモモの姉のアザミさん……  
なんかエロい雰囲気してるな……）  
「は、はい！モモとお付き合  
わせてもらってます！」

「へえ……君が……」



「そうだ、さっき学校から  
未提出の書類の件で電話があったわ」

「え!? マジで!?

……あ! 進路希望のやつ!?

「早く行ってきなさい

〇〇くんの『面接』して待ってるから」

「あ、あはは…お手柔らかに…」

「ごめんっ! 〇〇! すぐ行ってすぐ帰ってくる!」



# 数分後

「ふふ、モモったらおっちよこちよいいね」

「はい、でもそこが可愛くって…」

（妖艶って雰囲気だけど

すごい喋りやすいなあアザミさん…

抱擁感というか…すごい聞き上手っていうか…）

「ところで…○○くん」

「！はい！何ですか？」



「君って童貞？」

「はい！……」

「って、急に何聞くんですか!?!」

「ふふ、ごめんね  
やっぱり興味あったから」

「も、もう…お姉さんって意外と  
お茶目なんですネ」

「そうね、よく言われる

「実際いたずらするの大好きなもの」



「い、いたずら…そ、そうなんです…」

「でもそっかあ童貞かあ…♡」

「まだモモとセックスしてないんだあ…♡」

「やばっ…勃起してきた…っ」

「もしかして今日するつもりだった？」

「い、いや!?ち、ちがいますけど!?!」

「ふふ、動揺しすぎてバレバレだよ?」



「別に怒ってるわけじゃないよ？  
むしろ逆。心配してるの  
童貞くんがモモのこと満足させられるか  
初めて同士で失敗してギクシヤクしないかなあ？」  
「そ、それはっ…」

たしかに…モモのこと満足させられなかったら  
気まづくなってる…

「だからあ…」



「私で『練習』、しよ?。」

「!? そ、それってうわk...」

「違うよ? 『練習』だよ?。」

君が可愛くて良い子だからモモと  
良いカップルであって欲しいの!」

「そのためにはセックスは上手くないと...」

モモって毎日3回マンズr...」

オナニーするくらい性欲強いんだから!」

「そ、そんな...っ」

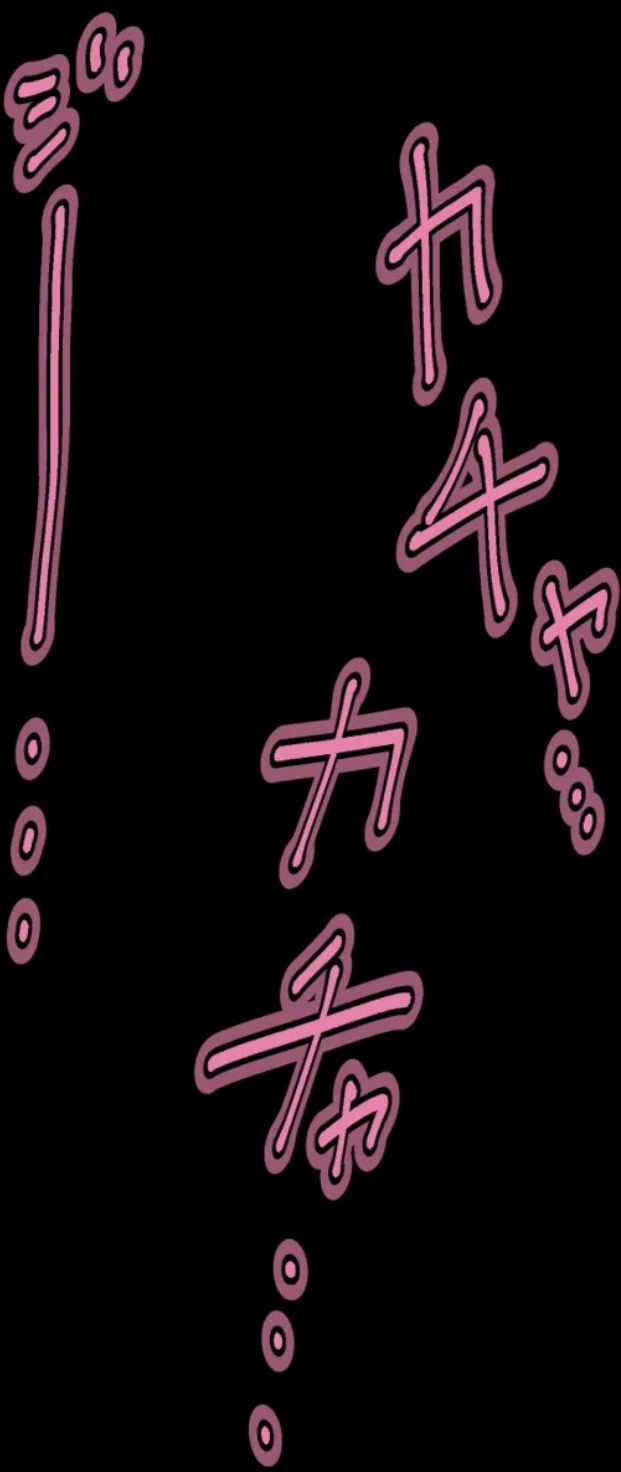
「だから手取り足取り教えてあげる♥」

ほら、ズボン脱いで?。」



「いらやどもやっぱら……!」

「遠慮しない…のっ」



「…って…何これ…」

「……………」

「あ、あの…?」

アザミさんの視線が冷たく…?

「……………ごめん、やっぱり良くないよね  
こんなこと  
もうしまっていていいよ」

「え…っは、は…っ…」



「たっただいまー！……ってどうしたの  
二人ともー？」

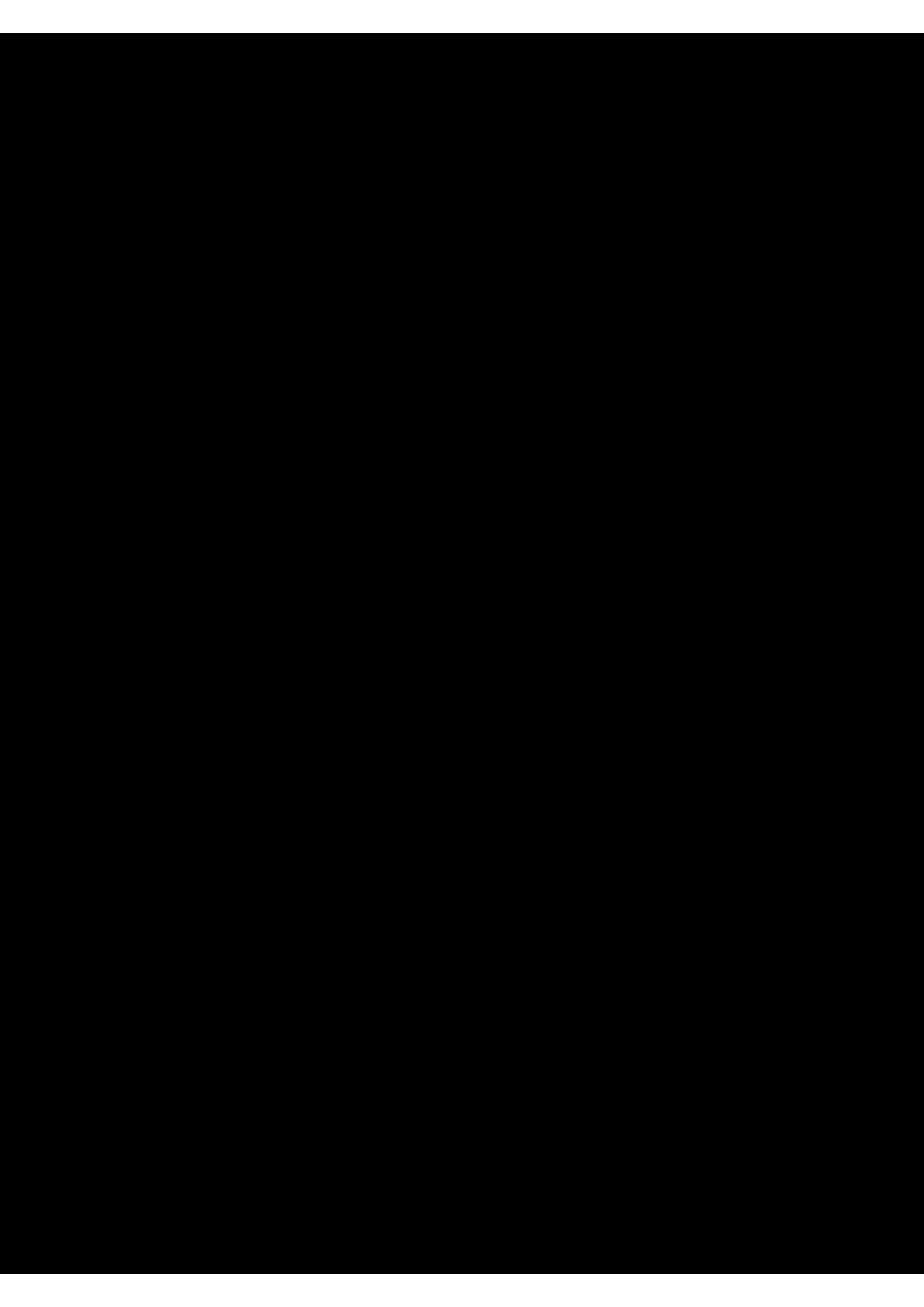
「え、あ、なん、なんでもない！」

「……………」



その後アザミさんは友人と遊びに行った。  
モモと初めてのセックスをするチャンスだったが…

アザミさんの発言や顔が忘れられなくてそんな気分になれなかった…



夜……

（はあ……せっかく妹の彼氏を寝取って  
マンズリコキたかったのに……

あんな粗チンありえないでしょ……）



（ていうかモモもモモだよ

あんなのじゃ絶対気持ち良くなれない……

姉としてセックスの気持ち良さをちゃんと伝えないと……  
でもモモ……結構ゾッコンっぽいからなあ……）

「.....良いこと思いついちゃった♡」



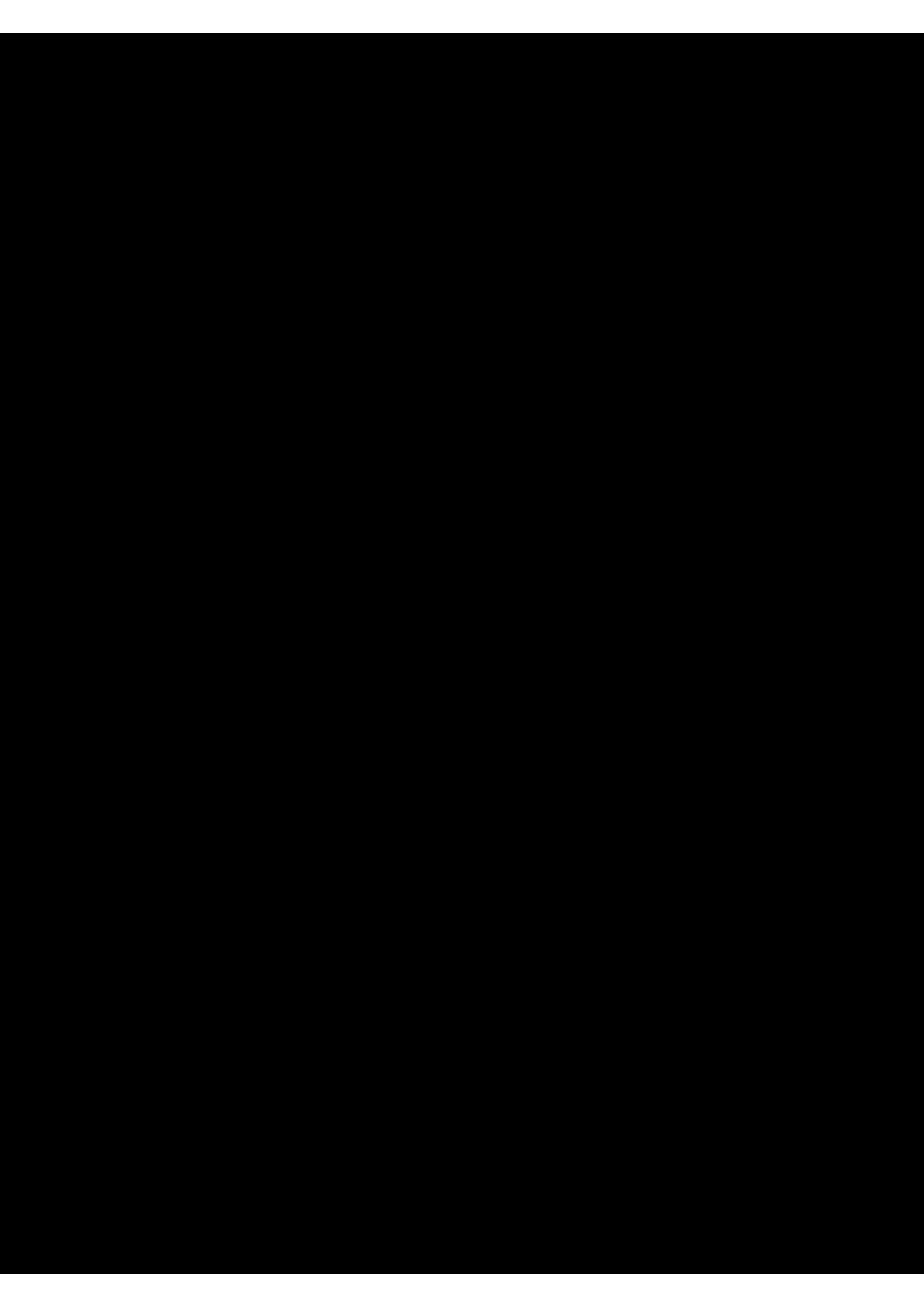
（いいよね、あんな粗チン選ぶモモが  
悪いんだし...♡

それに彼氏くんに素質があれば

モモにとっても最高のパートナーになれる...♡

私はオモチャが手に入るってことで...♡





しばらくモモが学校に来ない日があった。  
電話も出ず既読にもならないので  
家にも行つたがそれも留守のようで…

先生に聞いたが家庭の事情らしくそれ以上は  
教えてもらえなかった。

「海外旅行にでも行ってんのか…？」

一週間が過ぎ、警察に相談しようと思った。

しかしその日の放課後…

「○○っ！」

「モモ!!」  
モモと再会した。

「モモ…っ！返信も電話もなくて心配したんだぞ!!」  
「一体どこ行ってたんだより!!」

「あはは…ごめんごめん…♡」



「まったく…本当無事で良かった…」

「心配してくれてありがとうと…  
でもこれからまた行かないと  
いけないところがあつて…」  
♥

「ええ!?!どこに行くんだよ…!!  
せっかく会えたつてのに…」  
「ごめん…」

あたしも話したいこといっぱいあるけど  
今は無理だからさ…」



「これ、お土産♡」

「? お土産? 旅行でも行って...

ん? USB...?」

「二人で見ろよー!」

恥ずかしかったんだから...♡

じゃっ♡

「は!? あっ、おい! モモ!」

モモは走り去ってしまった。





走り去って行く瞬間…

何かが見えたような…そんな気がした…

夜

「…相変わらず電話も既読もつかないな…」

ただ一言、『大好きだよ』というモモのメッセージ以降、何の反応もなかった。

「……あのUSB、見てみるか」

パソコンを立ち上げUSBを挿入し中のファイルを開ける。

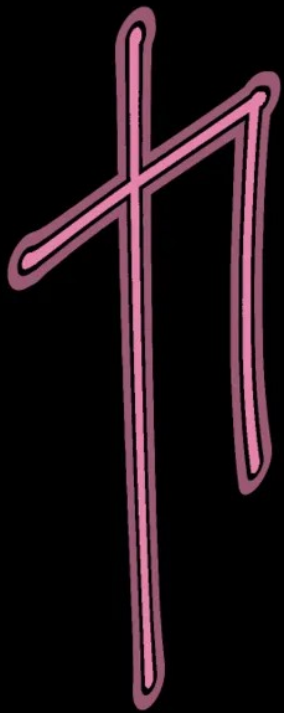
「動画だ……」

タイトルは……『豚姉妹調教記録』……?」

胸騒ぎ……タイトルから感じる不穏な気配に  
嫌な予感がする……

そしてそれは的中した。

俺はクリツクしたことを一生後悔することになる。



「お、お姉ちゃん…これで本当に  
○○喜んでくれるの…?」

「ふふ、さっきも言ったでしょ?

これは○○くんが望んだこと  
今まであなたに手を出さなかったのも  
そういうことなのよ」

「で、でも…やっぱり…」

「モモ、本当は期待してるんでしょ?

だって…そんなに濡らして…♡」

な、なんだ…!?何の話をしてるんだ!?

「おいコラ豚供、もう録画回ってんだよ  
さっさと始めんぞ」



ウェーイ彼氏クン  
見てるー？ww

うえ、うえーい…  
○○○…♡

♡♡♡



「な、なんだよ…  
何だよこれ…!?  
どういうことなんだよ…!?」

今からお前の彼女  
俺専用のマゾ豚にすっから  
ちやんと見とけよw

「ふ、ふざけんな!  
やめろ!」

しかし動画の中に  
声が届くはずもなく…



おい豚供何か一言ずつ  
言ってやれw

そうねえ…

まずは私から…♡

○○くん、このサプライズ動画は  
私のアイデア♡

寝取られマゾの○○くんに最高の  
プレゼントがしたいって思ったの♡  
私のご主人様に頼んでこの場を  
設けてもらったわ♡

まあ詳しいことは  
次会った時にじっくり…♡  
しましようね♡

えーっと…じゃあ次…あたし…❤

ね…寝取られマゾってことに  
気がつけなくてごめんねー〇〇…  
あたしマジで〇〇のことラブだから…  
えっと…頑張るから…捨てないでほしいな…

そゆことで…あたしの処女卒業と…  
マ、マゾ豚調教で  
いっぱいシコシコしろよ…❤

な、何だよ寝取られマゾって…!?  
どういうことだよ…!?

よーし終わったな…  
てかお前らさっきから  
チンポ見過ぎだろw

だ、だってえ…  
ネットで見たのよりずっと  
デッカいんだもん…

うふふ、そうね…  
ほんっと…何度見ても立派な  
オチンポ…  
どこかの誰かとは大違い

あーもうお姉ちゃんってば…  
○○の悪口言わないでよ…  
私まだ○○のチンポ先に見たこと  
許してないんだからね

ふふ  
でも私が教えなきゃこのオチンポ様とは  
出会えなかったわよ?

あ、あの時の…!?

うー…お姉ちゃんのいじわる…

トキトキ

彼氏クンには同情するわW  
こんな脳味噌までマンコ脳の  
底辺マゾ豚女と付き合ってるとかW

豚女見とけよ  
これがテメエの処女膜  
ブチ破るチンポだからな

うゝ…❤️ぶ、ぶたじゃないもん…❤️

口答えしちやダメよモモ❤️  
このオチンポがあなたのご主人様になるんだから❤�

それに安心して？ 私たちは底辺のマゾ豚  
でも最底辺ではないわ❤�  
さっき教えたでしょう？  
最底辺は…❤�



マゾオス  
なんだもの♡

○○くん、この動画を見ている頃には  
きつともうギンギンに粗チンを勃たせてるわ♡  
そんな情けないオスよりも下な訳ないでしょう？

ひっでーwww  
テメエのマンコ快樂のためだけに  
妹差し出す女よりも格下だってよwww

ひどいよお姉ちゃん…♡  
今まで尊敬してたのに…♡  
あたしや○○のためとか言って  
本当はそんなこと考えてたんだ…♡

ん？二人のためっていうのは本当よ？

短小包茎チンポ以外は良い子だと思っ  
たし二人には末永く幸せになってほしいの♡

寝取られマゾとマゾ豚カップルとして…ね♡



○○くん

たとえば万が一モモとオマンコできたとしても…  
強オスご主人様の優秀メス殺しチンポが  
モモの永遠のスタンダード…  
つまりこの先永遠に比較される運命…

○○くん、受け入れた方が気持ち良いわよ？

そこからもう地獄だった

はーちゃん

おっ

ん

はーちゃん

あ

ん

ん

あ

ん

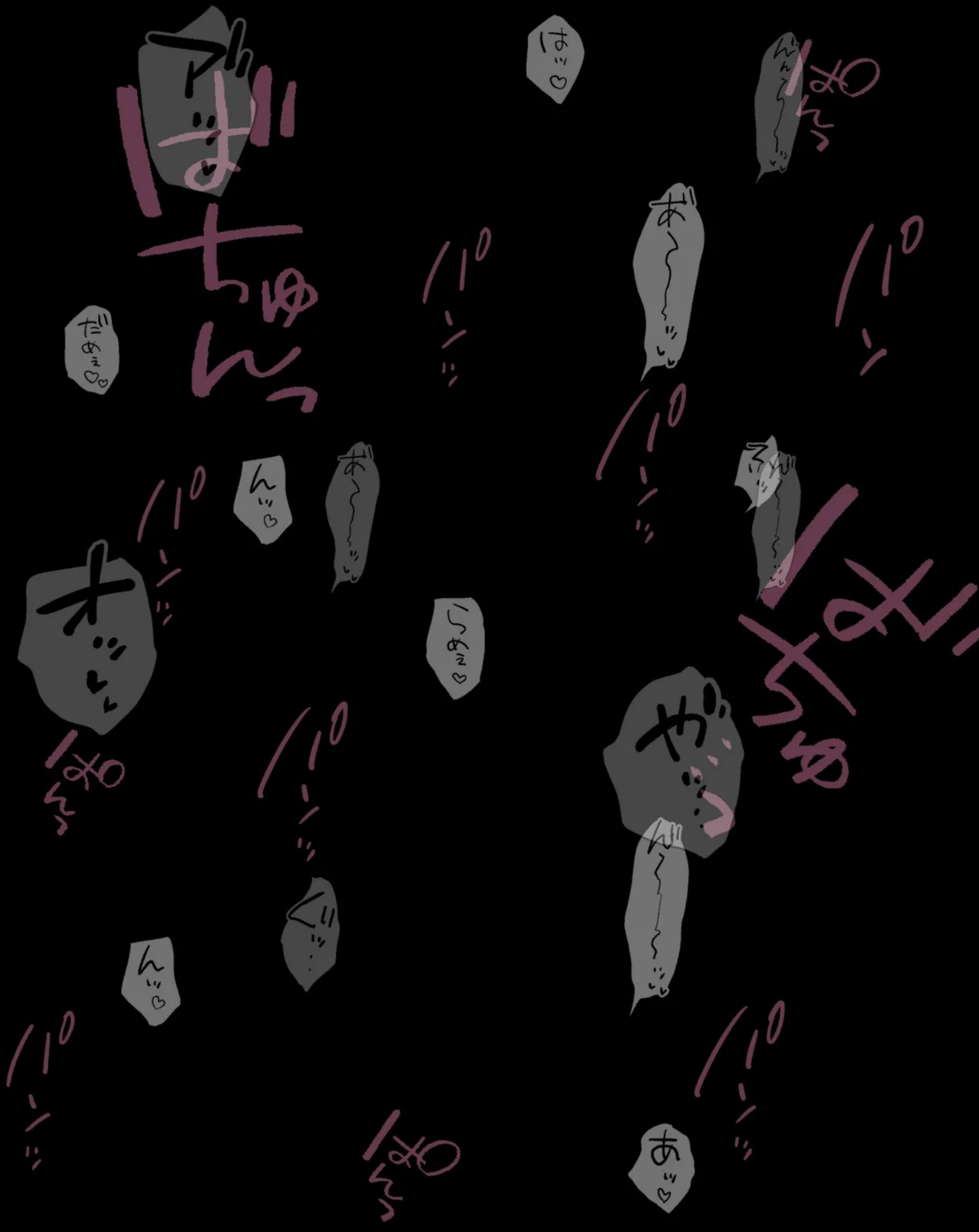
ん

おっ

ん

おっ

ん

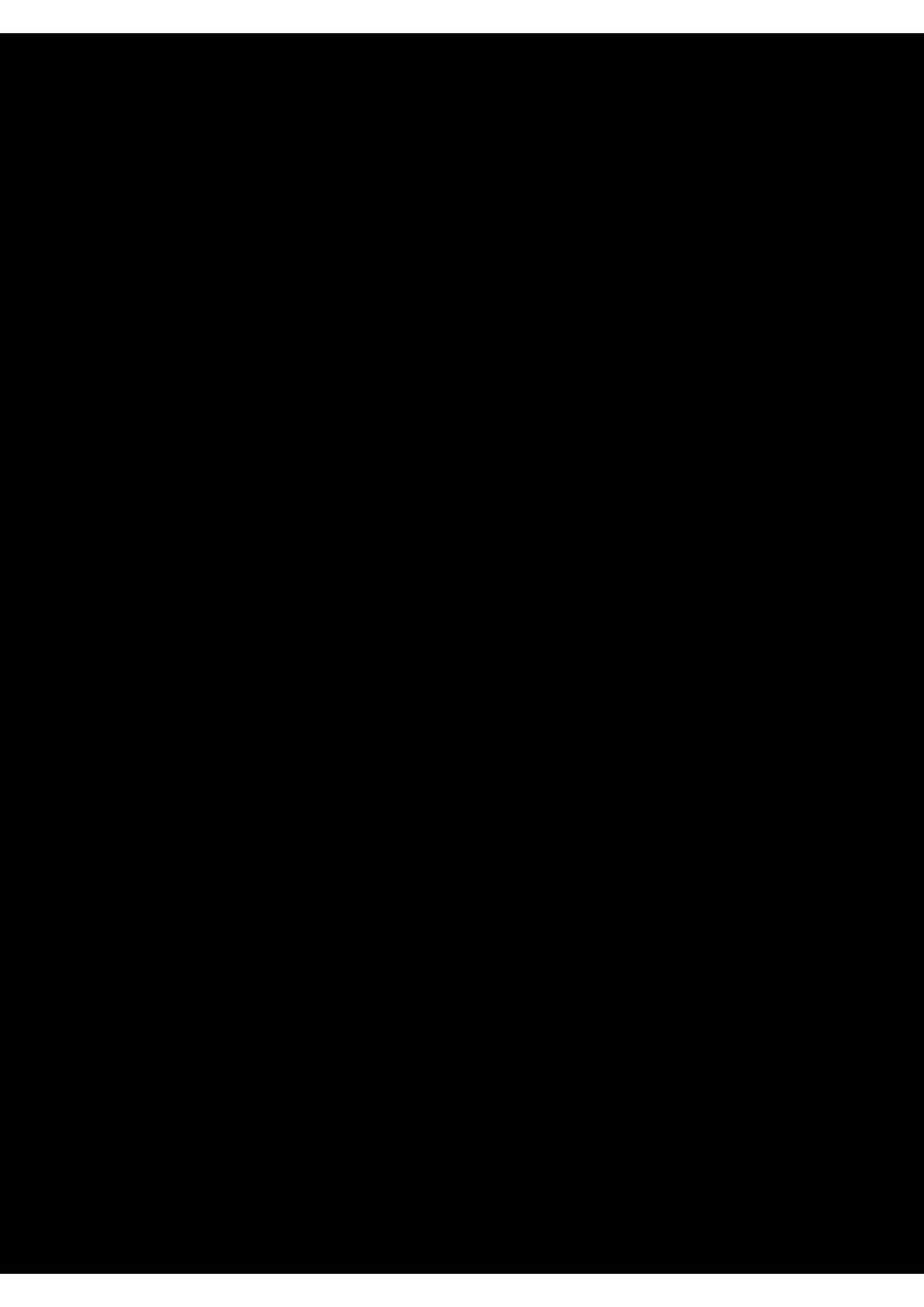


















おい豚、一言

ナス

イタ

A

粗チン

便女

free

ビッチ

アナル

お

ア

お

お

ア

お

お

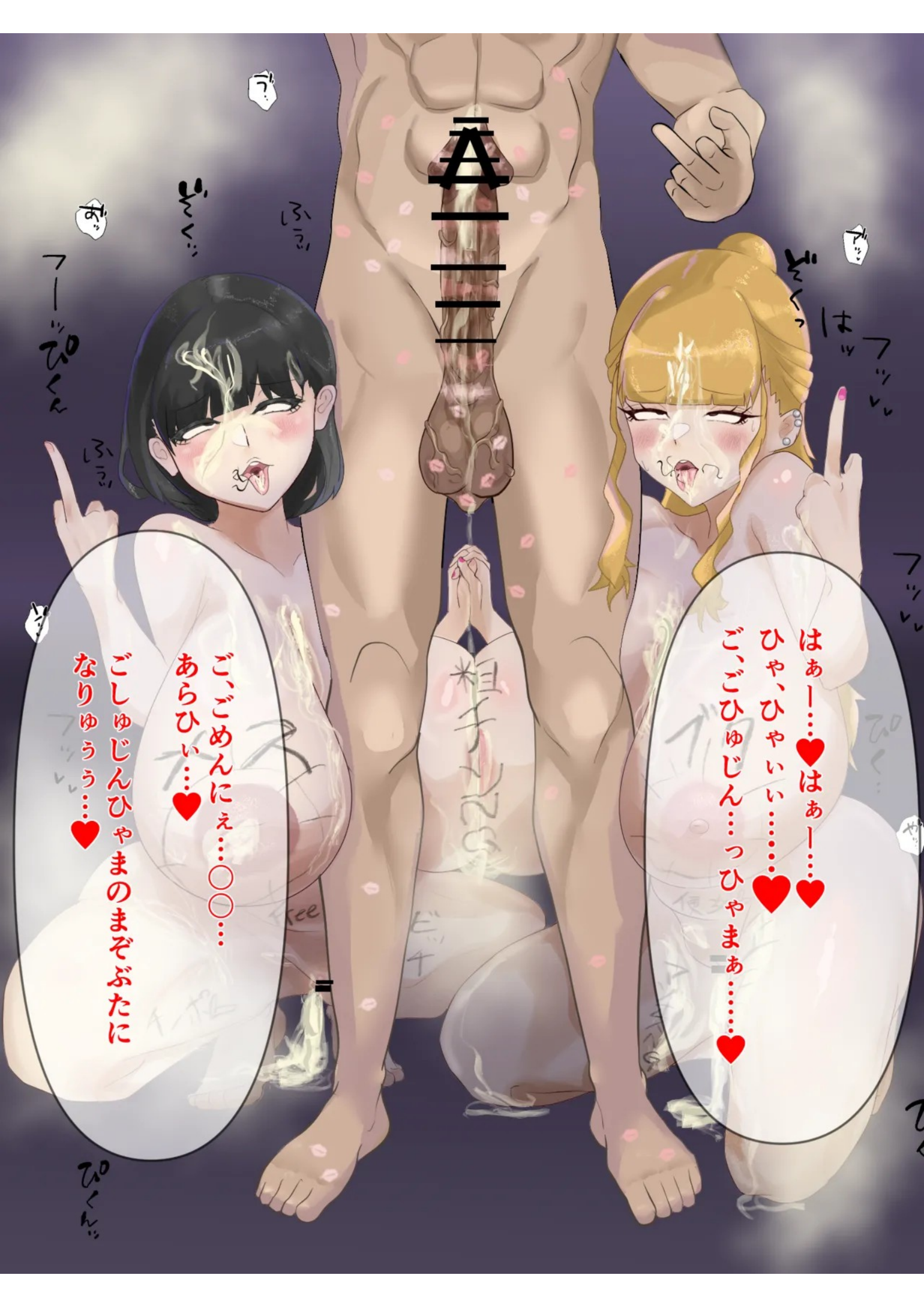
お

お

お

お

お



ア

粗キチン

ごいごいめんにあー……○○○○……  
あらひい……♡  
ごしゅじんひやまのまぞぶたに  
なりゆう……♡

はあー……♡はあー……♡  
ひゃ、ひゃいらい……♡  
ごいごいひゅじん……っひやまあ……♡

ふん

ふん

ふん

はっ

ふん

ふん

ふん

ふん

豚のくせに人様の言葉  
使ってんじゃねえよw

ブヒイだろ？

あうっ……ごいごいごめんなしゃ……❤

やめてくれ……モモ……

フー……

ふん

ふん

はッ

わ

や

ふん

て

やめてくれ

もうと

もう……! やめてくれ……!

ぶ、ブヒイっ♡

ぶ……♡ブヒイ……っ♡

舐めてんのか?

廃棄するしかねえな







マジでやったよこいつwww

ノびてるクズ女ですらもっと  
躊躇ってたのになwww

まあ従順な豚は嫌いじゃねえから  
しばらくは使ってやるよw

飽きたら  
どっかのおっさんに身体売らせる  
予定だからよろしくw

じゃあなWザコオスW

シークバーが走り切った後も  
俺はその場で固まっていた。

絶望、疲労、そして快楽で動くことが  
できなかつたんだ……





